

「2012年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(地域文化研究科)

2. あなたが本学大学院に進学した主な理由は何ですか。(複数回答)

項目	内容	延べ人数	割合
A	現在の仕事に関して、より専門知識を身に付けるため。	5	19%
B	興味・関心のある分野の勉強がしたくなったから。	9	33%
C	資格取得のため。(税理士試験科目免除、臨床心理士試験受験資格、教員専修免許等)	7	26%
D	大学院修了という学歴がほしかいから。	2	7%
E	将来に不安を感じたから。	2	7%
F	時間に余裕が出来たから。	0	0%
G	その他	2	7%

G:理由

地文M1	大学院での勉強がどのようなものなのかを知りたかったから。大学院で勉強していた人を見て、楽しく
地文M2	特定の教員の下で学びたいため。

3. あなたが本学大学院に進学するにあたり、情報をどこで得ましたか。(複数回答)

項目	内容	延べ人数	割合
A	学部の指導教員	5	16%
B	先輩	7	23%
C	学内での説明会	2	6%
D	オープンキャンパス	3	10%
E	大学院パンフレット	8	26%
F	本学ホームページ	5	16%
G	その他	1	3%

G:理由

地文M1	入試センターに問い合わせをした
------	-----------------

4. あなたの研究についてお尋ねします。

①現在、あなたの行っている研究はどのようなものですか。(複数回答)

項目	内容	延べ人数	割合
A	理論的研究	4	15%
B	調査・インタビュー・実験を用いる研究	8	31%
C	二次資料・史料の収集や整理を伴う研究	2	8%
D	課題の発見に関する研究	5	19%
E	課題の解決を目指す研究	3	12%
F	実践的応用に関する研究	3	12%
G	その他	1	4%

G:理由

地文M1	理論的研究をふまえ、実践的活用を目指した研究
------	------------------------

②現時点における研究の状況はどのようになっていますか。

	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
研究テーマ・内容が明確である	6 (50%)	4 (33%)	2 (17%)	0 (0%)
研究の独自性(オリジナリティ)を意識しながら、研究を行っている	4 (33%)	6 (50%)	2 (17%)	0 (0%)
研究の計画が具体的に定まっている	4 (33%)	3 (25%)	4 (33%)	1 (8%)
研究を行うときには、自分自身の判断によってすすめている	3 (25%)	4 (33%)	4 (33%)	1 (8%)
他者(学内の教員、先輩)に意見をもらう機会を自分で作る	4 (33%)	4 (33%)	2 (17%)	2 (17%)
学外の研究者と交流している	1 (8%)	4 (33%)	3 (25%)	4 (33%)

「2012年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(地域文化研究科)

5.今年度、大学院で開講されている授業についてお尋ねします。

①今年度、あなたは何科目履修しましたか。

	人数	割合
0科目	0	0%
1～2科目	2	17%
3～5科目	1	8%
6～10科目	4	33%
11科目以上	4	33%
無回答	1	8%

②(1)その中で今後あなたが研究をすすめるにあたって、大いに役立つと思う科目がありましたか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	ある	12	100%
B	ない	0	0%
C	科目の履修はしていない	0	0%

②(2)その科目名は何ですか。

(3)どのような点が役に立つと思ったのですか。

	科目名	理由
地文M1	障害者福祉特論	修士論文のテーマが障害者に関連しているため。参考図書や研究などを教えてもらうこともできる。
地文M1	考古学特論ⅠⅡ 東アジア文化人類学特論ⅡⅢ	
地文M1	精神医学特論	普段はあまり聞けない精神科医の先生の講義が聞けたり、依存症や精神腫瘍学など視野を広げるためのいい機会となりました。
地文M1	全て	
地文M1	国語教育学特論ⅠⅡ	修士論文に関わりのある分野であるため。また、国語科教育の理論について学ぶことが役に立っている。
地文M2	日本古典文学特論ⅡAB	研究対象である古典作品に対する見方、考察のポイントを得ることができたため。
地文M2	国語教育学特論	教師を目指しているため、実践の場でいかすことの出来る理論を学ぶことが出来る場として大切である。
地文M2	特殊研究	自分自身の研究内容を発表することで、課題点や頭の整理ができる。加えて、他の院生の発表においても視野が広がり、刺激になる。
地文M2	特殊研究	研究法、研究分野の専門知識が身につけられ、自分でアイデアを考え機会が得られ、ゼミの仲間、先生にも意見をもらえたから。
地文M2	障がい児(者)援助特論	福祉と臨床心理の関係が扱われたため、実践的だった。
地文M2	精神医学	研究に関連のある先生を招いての講義であったため、内容そのものが研究とマッチしていた。

③(1)今後あなたが研究をすすめるにあたって、何らかの改善をした方が良くと思う科目がありましたか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	ある	3	25%
B	ない	7	58%
C	科目の履修はしていない	0	0%
	無回答	2	17%

③(2)その科目名は何ですか。

(3)どのような点が役に立つと思ったのですか。

	科目名	理由
地文M1	社会福祉特論	講義は良いものだと思います。しかし、講義の内容に関してなぜこれが必要なのか不明瞭だったり、担当教員の対応があまり良く感じません。
地文M2	投映法特論	先生が断定的、科学的ではなかった。学生に対して、威圧的だった。
地文M2	臨床心理実習	実習について評価するだけでなく、サポータータイプ(ヒントを与えてくれる、どうしたらいいのかわかる等)な授業であってほしい。

「2012年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(地域文化研究科)

6. あなたの研究に関する現在の指導体制・環境についてお尋ねします。

①現在の指導体制・環境に満足していますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	満足している	6	50%
B	満足していない	5	42%
C	どちらでもない	1	8%

②満足できない理由は何ですか。(①でBと回答した方のみ)

地文M1	指導教官に自分の専門の話の理解があまり得られない。教員同士の個人的な関係が見えていると(少し関係が悪い、互いに余りよく思っていないなど)、該当教員に対して指導を仰ぐのもどうなのかと考えてしまうこともあります。
地文M1	教員との関係が難しく研究に大きな影響が出ている。
地文M1	准教授の教員も特殊研究を担当できるようにしてほしい。
地文M2	教員が忙しすぎるため、連絡不十分なことが多い。
地文M2	仕方ないとわかってはいるが、入試等で入講禁止が多く、研究をまとめるのに差し支えています。学校のPCでしかできない分析などあるので。

③指導体制、方法、環境に関して、入学前に担当教員によるオリエンテーションがあった方がよいですか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	あった方がよい	4	33%
B	なくてもよい	2	17%
C	どちらでもよい	5	42%
	無回答	1	8%

④その他、指導体制、方法、環境に関してご意見やご要望がございましたら、自由にご記入ください。

地文M1	講義中のオスプレイはうるさいですね。これは、基地の近くということもあり仕方のないことですか。何のためにロッカーがあるのか分からない。院生室など私物が多すぎて、あまり立ち寄らない人には別世界に感じます。あまり13号館6Fの大学院専用の研究室にはあまり立ち寄りたくない理由の一つにもなります。徹底排除とはいいませんが、必要のあるもの、ないものを少し分けて欲しいですね。
地文M1	なんとなく、「こうします」的だったような気がするので、きちんとオリエンテーションしてほしい。
地文M2	1年次は、2年次の先輩に指導をうける、という雰囲気になっている。本来は教員からのはっきりした指導が必要ではないか。(2年次に責任がかかってしまっている)

7. 大学院の施設・設備についてお尋ねいたします。

①大学院の研究や論文作成のための施設・設備に満足していますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	満足している	6	50%
B	満足していない	5	42%
C	どちらでもない	1	8%

②満足していない理由は何ですか。(①でBと回答した方のみ)

地文M1	大学院学生専用の場所があるのはとてもうれしいことですが、建物の6階などアクセスが悪い気がします。静かに勉強できるとは思いますが、個人的にはさっと入れる1階に研究室、部屋、待合室などがあると便利です。そうすれば、図書館にも気軽に移動でき便利だと思います。6階までエレベーターで上がるのも面倒と感じて好きではないです。 何のためにロッカーがあるのか分からない。院生室など私物が多すぎて、あまり立ち寄らない人には別世界に感じます。13号館6Fの大学院専用の研究室にはあまり立ち寄りたくない理由の一つにもなります。徹底排除とはいいませんが、必要のあるもの、ないものを少し分けて欲しいですね。また、机を私物化しているかのように図書館からの本、自分の資料、などをおいて席を取っているかんじです。研究室をなかなか利用できない人には居場所がないですよ。机を私物化するなら、1人にデスク1台とかそのようなことをしても良いと思います。 新しく開設したところも、いずれは現在の研究室のようになるのではないのでしょうか。最近、開設した地域文化研究科の新しい自習室(?)も私物が置かれ始めています。ロッカーも数を増設するなど荷物を置ける場所を増やした方が良くと思います。
地文M1	パソコンの起動が常に遅い。 資料が少ないため、他大学へ行かなくてはならない。 図書館を24時間体制で開いてほしい。それが厳しいなら、13号館の6階だけでも24時間開放してほしい。

「2012年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(地域文化研究科)

地文M1	大学院専用の専門書が少ない。
地文M2	パソコンや周辺機器の不具合が多いため。 また、利用者のマナーがあまり宜しくないと思われる。(例:パソコンを利用し終えた後、ログオフ・シャットダウンをしていない。)
地文M2	図書館の利用を、せめて修了式前日まで認めてほしい。 修論だけでなく他の論文作成もあるので、本が借りられないと非常に困る。

③講義や課題や論文の作成にあたり、大学の設備(研究室及び図書館等)を利用していますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	よく利用している	10	83%
B	たまに利用している	2	17%
C	全く利用していない	0	0%

④その他、大学院の施設・設備に関してご意見やご要望がございましたら、自由にご記入ください。

地文M1	建物隣ですが、13号館6Fから図書館までのアクセスが悪い気がします。
地文M2	修了年度(2年次)の図書館の利用期間が2月中旬で終了となるのは困る。修論の最終試験のころには、利用することができないことになっている。
地文M2	図書館の利用を、せめて修了式前日まで認めてほしい。 修論だけでなく他の論文作成もあるので、本が借りられないと非常に困る。

8. 教育支援者(TA・SA)制度についてお尋ねいたします。

①あなたは、現在、教育支援者(TA・SA)として、学部授業のサポートを行っていますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	行っています	2	17%
B	行っていません	7	58%
C	過去に経験があります	3	25%

②M2以降も、教育支援者(TA・SA)を続けたいと思いますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	続けたい	3	75%
B	続けたくない	0	0%
C	どちらでもない	1	25%

③上記②において、その回答を選んだ理由は何ですか。

地文M1	個人の勉強に役立つため
地文M2	個人的にたいへん有難い機会(経験)だったが、担当教員によって支援に落差が生じていると感じたため。支援体制に協力的な教員の授業ならば支援者をしたい。
地文M2	自分の学びの場にもなるため
地文M2	続けることで、前年度の経験を生かせるから。

④教育支援者(TA)経験が無い方へ質問です。教育支援者(TA)の経験をしてみたいですか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	してみたい	3	50%
B	してみたくない	1	17%
C	どちらでもない	2	33%

⑤上記④において、その回答を選んだ理由は何ですか。

地文M1	とある教員たちの教育支援者の使い方がおかしいと思うから。あの使い方は、教育支援者がやる内容をオーバーしているように思います。特に大学事務側も教員に対して指導をしている様子がないので、やりたいとは感じません。 また、教育支援者の使用規約(?)みたいなものの許容範囲が教員、大学事務側で大きく意見も食い違っていたりするので。約束をしっかり守りながら使用している教授も居るのですが、使用規約の「解釈の範囲」が広すぎるので教員達も自由に学生を使用しているのではないですか。 採用された教員で業務内容に差があり、当たり外れがあるのはおかしいと思います。
------	---

「2012年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(地域文化研究科)

地文M1	仕事をしながら通っています。
地文M1	個人的に、スキルアップになると考えているため
地文M1	教員の姿勢を間近でみることができるのかと思って
地文M1	教員志望のため、今後の自分自身に良い影響を与える機会としたいため。

9. 本学に付置している研究所についてお尋ねします。

①本学にある4研究所を知っていますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	知っている	8	67%
B	知らない	4	33%
C	興味がない	0	0%

②本学の研究所の施設を利用したことがありますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	よく利用している	0	0%
B	たまに利用している	1	8%
C	全く利用していない	11	92%

③本学の研究所が主催する「研究会」などのイベントに参加したことがありますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	よく参加している	0	0%
B	たまに参加している	4	33%
C	全く参加していない	7	58%
	無回答	1	8%

10. その他、ご意見やご要望がございましたら、自由にご記入ください。(時間数、科目の種類など)

地文M1	他領域の科目を履修するのは、視野を広げるためであるが、なかなか時間をとられている気がする。奨学金の種類をもっと増やしてほしい。
地文M1	大学、大学院として、地域への還元ができているのか疑問がある。
地文M1	自分自身の研究分野に関わりのない科目は、履修したくありません。自身の研究に関わる時間の確保のため、ムダのない時間割の組み立てを求めます。(講義の開講時間を早めにしてほしい)
地文M2	履修ガイドには明記されていない事項の連絡が遅い、また不明瞭。 例えば、今回修士論文を提出するにあたり、A4フラットファイルの画像と共に論文を綴じるようにという報告があったが、厳密には綴じられていれば問題ないという意味だったようだ。そうであるなら明記すべき。(A4ファイルでなければダメだと思ってしまう。)
地文M2	今年、春休みに調査へ行っていたため、健康診断を受けることができなかった。 加えて学部生と同じ時間帯に設定されることも、夜間の授業が多い院生が受診できるのかが疑問です。何か期間を延ばす、もしくは他の医療機関受診料の補助などの対策があれば嬉しい。
地文M2	忙しい2年間だったけど、充実して過ごせました。 設備も整っていて、ありがたかったです。
地文M2	研究所の利用の仕方がわからない。 存在は知っていたが、利用してもいいということ自体知らなかった。